

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2370800795		
法人名	社会福祉法人しあわせあつくん		
事業所名	グループホーム大喜		
所在地	名古屋市瑞穂区大喜町2-79		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub.do>

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区村区松原町一丁目24番地 COMBI本陣S101号室		
訪問調査日	平成22年10月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人理念(ひとり一人を大切に!!)を実践し、グループホームの生活の中で、入居者様と職員、ご家族が共に支えあう生活リハビリを実践しています。日々の生活の中に、一人一人が出来ることを最大限に生かすため職員と一緒に炊事・洗濯などの家事を共有して行っています。また、地域とのかかわり合いとして、入居者様皆さんが老人会に加入していただき、法人と老人会の共同で行う3か月に1度のペースで日帰り旅行を計画し実行しております。1ユニット(9名定員)での小規模ならではの個別ケアに心がけております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者のうち、5名は以前から通っていたデイサービスへ徒歩で週3日通っていて、顔馴染みの職員や友人同志に囲まれて、穏やかに過ごしている。管理者はまだ若いですが、全職員の協力のもとに、理念に基づき利用者の一人ひとりの特性を掌握して対応している。職員実践5項目は職員が実践しやすいようにと、やさしい言葉で管理者が作り上げたものである。日々の業務日誌は利用者の1日が、簡潔な言葉で表現されていて、職員はチェックですむように工夫されている。その為、介護計画は利用者の現状を的確にとらえているので、家族は安心している。民家を改装したホームであるが、階段、敷居、などの段差は日常的にリハビリとなり、足、腰の鍛錬になっている利用者がいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	早朝の申し送り時、法人理念と職員実践5項目の唱和・確認を行い、出勤時必ず通るエレベーターに表示し、意識して実践を行っている。	理念と共に職員実践5項目(責任ある行動・丁寧な言葉づかい・親切な態度・清潔な身なり・正確な連絡と相談)が日報に記しており、日々の業務記録の際にも目に付くよう工夫されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや行事には参加し、老人会などに積極的に交流を図っている。現町内会長や隣人の方に運営推進会議に参加していただいている。	全利用者が老人会に加入していて、5月に日帰りバス旅行(安城のデンパーク、10月は昭和村)に参加した。近くの神社のお祭りには、マンツーマンで出掛けている。町内の消防訓練、AED使用訓練にも参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の老人会と当法人が共同で日帰り旅行を実施している。(3か月に1度のペース)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方や町内会長・隣人の方・学識経験者を交え課題について話あっている。	6回目はターミナルの利用者受け入れの体制作り等で開催出来なかったが、直近まで5回実施している。包括支援センターとは、開催日の折り合いがつかず出席はないが、災害時の協力は町内会長、隣人から申し出があった。	今後、地域包括支援センターへは、書面で運営推進会議出席の要請をし、参加協力を要請することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的ではないが、施設での運営や入居者様での問題が生じた場合に市役所の職員に相談・助言をいただいている。	名古屋市とは、スプリンクラー設置について頻繁に連絡相談してきた。災害時に大型消防車が事業所前までは入れない道路事情であるので、23年7月に設置という段階まで漕ぎ着けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対するマニュアルを休憩時間などに閲覧できるよう配置している。	「身体拘束排除提言」を事務所、エレベーター内に貼付して、職員には身体拘束をしないよう求めている。居室が二層構造なので、階段、エレベーターを使用時には職員は音で感知して、利用者の動きを把握している。	身体拘束排除の為の研修は、念のため年1度は是非実施して、職員への一層の周知を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についてのマニュアルや資料を閲覧できるよう配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中で成年後見人を実際に活用されている方がおり、入居者様を通し学ばせていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にご家族・ご本人と懇談の上で入所の準備をはかり、ご本人に合った入所の形をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応のため第三者機関への表示や促しを行っている。また、ご家族の大半が1週間に1度面会をしていただいているのでその際話し合いを設けている。	元旦の朝9時頃から夕方まで、開設当初からの習慣で、事情の許す利用者には自宅へ外出して貰っているのが、世情の変化に対応すべきという意見もあり、検討することを予定している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティングを設けている。また、必要に応じて個人面談を実施している。	月1回のミーティング以外でも、日々の気づきは業務日誌に記入し、利用者の要望も取り入れ、チームワークを活かしながら外出などにも柔軟に対応している。あらゆる関連情報も職員間で共有して、ケアに役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1・2回程度の個人面談を実施し、個々の状況心境の把握につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員ではないが、個々に法人内研修や外部研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に所属し、交流会などに参加している。また、同業者間で研修を受け入れたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くため、スタッフから積極的に話しかけ入居者様からも話かけられる状況を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	月に1度以上は施設に在所して頂き、施設での過ごし方や状況をお伝えしご相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の3分の2の方が同法人のデイサービスを利用していたことから必要と考えられるかたはデイサービスを継続利用できる体制をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中過ごす中で、一緒に家事を行ったりと生活リハビリを通し時間や物事の共有に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様を交えた家族会や法人主催の秋祭りにご招待し交流や情報交換に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に2～4日、ご家族の方との面会や外出をして頂けるような現状があり、施設からもご家族に連携をとっている。	利用者は系列のデイサービスへ週3日徒歩で行き、以前からの友人と会うのを楽しみにしている。馴染みの美容院で毛染めをしたり、喫茶店や大型スーパーへ、1対1で同行して馴染みの場の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の入居者様と関わるのが苦手な方については職員が間に入って談話やレクリエーション、お手伝いを行い孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、施設側からは連絡はできていないのが現状であるが、連絡や相談には極力支援や相談に対応していくよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設入所までの生活のしかたや、ご本人の意向などをご本人を交えご家族と懇談し検討している。	日常のケアで気付いた事柄を、「生活支援プラン」「グループホーム記録」に記載して、ケアプラン見直し時に参考にしている。言葉を発せない利用者には、素振りや発声、表情により、複数の職員が代わって把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族と懇談を実施し、情報交換をしたうえで、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や、出来事を日報や申し送りノートを活用し、職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、職員ミーティングを設け、職員同士で話し合いご家族と介護計画について思案している。	利用者が就寝後に、一部パート職員を除いて1~2時間、利用者全員(9人)について3カ月に1度定期的に見直しているが、急変時はその都度変更して家族に伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日報と介護計画実行表を活用して見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を反映できるよう、職員間で検討をしご家族に相談のもと、実施している。例えば入居者様が食べたい物があった場合は外食をしたり、出前や作ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の老人会に参加・交流を持ちながら生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の2週間に1度の往診があり、必要に応じて受診や往診が出来る体制を設けている。	全利用者が協力医の往診を受け、入れ歯の調節などは訪問歯科が来所している。また、受診は家族が出来ない時は職員が同行している。系列の施設から看護師も来ていて、24時間連携がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度の看護師による健康診断を行い、心身の状況など相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際に、職員が交代で見舞を行い、ご本人の状況確認や担当医との情報交換につとめている。入院時はアセスメントを提供し情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人・ご家族の意向をお伺いし、要介護度が上がった、心身状況が低下など見られた場合、職員間やご家族、提携医と相談のもと、ターミナルケアなど取り組んでいる。	過去に2人看取ったが、現在家族の要望で1人を看取り中である。常時目の届くりビングで他の利用者と共に過ごしていて、点滴を受けているが、少々飲みこみが出来るようになってきた。看護師が毎日、点滴や様子を診に来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故があった場合に備え、緊急対応マニュアルなどそなえている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。夜間想定訓練も実施している。	夜間想定をして、職員が利用者役なり、2階、3階から備え付けの担架で降ろした。足の弱い利用者に見立てた職員は腰で降りたが、約15分から20分かかった。水、食糧は約3日分備蓄してある。	大型消防車が入れない道路なので、災害時の避難経路の確保や利用者自らの避難訓練を実施して、災害に備えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉づかいを心がけ、必要に応じた声掛けを実施している。	トイレ、入浴介助共に同姓介助をしているが、女性利用者の一部は男性職員の方が、安全であると、特に拘ってはいない。信頼感から一人ひとりに応じた言葉を遣い分けて、利用者に寄り添っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を尊重し自己決定できるよう、話し合い、声かけを行い、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気分や、体調を把握しご自分のペースで過ごせるよう職員間で申し送りや相談をして支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族に相談し、ご本人の好みの衣類を季節ごとに衣替えを実施し、支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者様と職員と一緒に同じものを食べながら過ごし、準備や片付けと一緒にやっている。	朝食は夜勤者が一人で作っているが、昼と夜は配食業者が2日に1度届けてくれるものを、温めて盛り分けている。食器を拭いて、棚に収めている女性が2人いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量を記録し、1日の必要量がとれるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみてさりげなくトイレ誘導を行い、パット・紙パンツは個人の状況に合わせて対応している。日中と夜・布パンツと紙パンツの使い分けをし、トイレでの排泄に心がけている。	排泄は5名が自立しているが、トイレ使用後は必ず、便は尿かをチェックしている。紙パンツ使用者は時間と様子から察して、誘導している。トイレ内の棚に頭文字を記入した箱に紙パンツやパットを入れて置いてある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物(ハーブティー)の工夫を行っているが、どうしても自力排便できない方もおり、今後の課題になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通常は毎日入浴を実施している。暑い夏場は汗をかきやすいため、毎日、寒い冬場は寒暖の差などで体調を崩されないよう1日置きと夏・冬と入浴に変化をつけている。入浴時間は午前・午後と日中入れるようにしている。	利用者の希望により、午前、午後、夕方に応じている。以前は拒否する利用者がいたが、今は居ない。浴槽、洗い場、壁、洗面台は大理石作りで豪華であるが、改装は難しい。洗い場はマットを敷いてある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は一律に就寝時間を決めず自室内では好きに過ごして頂き、自然に休まれるのを見守っている。日中もその方に応じ、自室やリビング内で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現状、全職員の理解力にはばらつきがありレベルアップに努めたい。服薬する方にはその都度、手渡しあるいは直接口に入れて飲んだこと確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭きなど出来ること、得意なことをそれぞれ手伝っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	インフルエンザの流行や冬の寒さや夏の猛暑日は外出を控えているが、近隣へ散歩・喫茶店にいったり3か月に1度のペースで町内老人会で日帰り旅行や、1か月に1回以上ご家族と外出に心がけている。	日常の外出は近辺の散歩、神社、喫茶店など、天候、利用者の健康状態により出掛けしている。殆どの家族が月3~4回来て、外出、外食、買い物に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことで混乱される方も現状いっしょり現時点では入居者様では管理されていないが、外出時は個々の財布を用意し買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話したいとのご要望があれば取り次いでいる。ほとんどのご家族が1・2週間に1度面会に来ていただいているので促しはしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家階層型の為、皆様が集まるリビング近くにトイレが一つしかなく、施設内でも2か所しかなく、利用時重なってしまうことが生じ不快感が課題である。	民家であった為、各階のトイレが1か所で居室にポータブルトイレを置いている利用者もいる。トイレには扇風機、ヒーターが置いてあり、車椅子介助も十分である。リビングは2方向が大きなガラス窓になっていて、明るく、風も通る。狭いが目は行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭く、独りになれる場所の確保が難しい。しかし、狭い中でもテーブル等の位置を工夫して少しでも居心地の良い場所になるよう努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の間取りはすべて違い、好きな物や必要なものをご自宅から持ち込んでいただいて、ご自宅に近い雰囲気づくりを行っている。	9か所の居室は全て形態が違って、和室は1部屋で、床の間があり、仏壇収納場所には仏壇が置いてあり他の利用者も拝んでいる。床にフンを敷いていたり、使い込んだタンスや衣桁、籐椅子を置いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やコーナーに椅子を置いて、歩き疲れたら休めるよう工夫をしている。出入口に鈴をつけたり階段部に安全柵を設置している。安全確保とともに拘束にならないようにする課題がある。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム大喜

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 12月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	運営推進会議の年6回以上の開催が出来ていない。	年6回以上の開催に取り組む。	2か月に1回の定期開催にし、運営推進委員に協力をさせていただくよう連絡の徹底をする。	12ヶ月
2	5 (4)	運営推進会議に市町村職員が出席されていない。	市町村職員の出席しての開催。	市町村職員へ協力の案内を送り、協力をえる。	6ヶ月
3		施設だよりの定期配信。	3か月に1度のペースで施設だよりを配信していく。	職員間で施設だよりの作成にとりくみ、ご家族へ配信していく。	6ヶ月
4	35 (13)	年2回以上の防災訓練の実施。	夜間想定をまじえた防災訓練の実施。	3か月に1度の防災訓練の実施を行う。	12ヶ月
5					ヶ月